

平成27年度「市長と語り合う会」について

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
10月22日（木）	中西地区振興センター	19:00～20:10	23	7	30

○市側出席者

市長、政策企画局長、総務部長、秘書広報課長

2 会の概要

○開会（秘書広報課長）

- ・ 会の趣旨説明
- ・ 出席者紹介

○あいさつと市政運営の説明（山本市長）

1. 「人口拡大計画から総合戦略へ」

平成26年2月に人口拡大計画を策定した。策定の動機は人口減少が益田市において、深刻で長期的な問題をもたらすことから、なんとか人口減少に歯止めをかけ、拡大に転じさせるためだった。この計画の策定からしばらくして、人口問題が全国的に注目されるようになった。これはいわゆる地方消滅という論文で、日本創生会議という民間のシンクタンクが各自治体の2010年から2040年までの人口を推計し、その地域の20、30代の女性の人口が半分以下になるところを消滅可能性自治体と名付けた。全国1900くらいある自治体の中で、859もの自治体がそれに該当するとされた。益田市もこの中に含まれている。政府も地方にもう一度人口を戻さないと、3大都市圏に人口が集中することで地方が立ちいかなくなる。東京でも2020年のオリンピックまでは景気のいい状況となるが、それを過ぎると景気が冷え込み、人口も高齢化し一度に大量の高齢化問題が起こるとした。

そこで昨年9月にまち・ひと・しごと創生本部を設置し、国でも総合戦略や人口の長期ビジョンを出した。同時に都道府県、市町村ごとの総合戦略と人口ビジョンをつくることも求められた。これを受けて、各自治体は総合戦略策定に着手した。

益田市でも10月中で最終的に総合戦略を仕上げる。この総合戦略の考え方は、人口拡大計画をベースにおき、新たな視点とプロセスを加えて策定する。人口拡大計画の「子育て世代に手厚く」「UIターン大歓迎」「中山間地域を元気に」の3つの切り口にあらたに「ひとづくり」と「しごとづくり」の2つの視点を加え、国、県の総合戦略を参考としながらつくる。その結果、今回の総合戦略では4つの基本目標を置いている。まず人口定着の基盤となる「しごとづくり」である。雇用が増えなければ、地域で子どもが育っても仕事を求め都会に出ていってしまう。またUIターンで来られても、仕事がないと住んでもらえないことから、仕事をつくるのが人口拡大において重要となってくる。つぎに若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえることである。現在、出生率は日本の平均では約1.4であるが、益田市は1.80で全国的にも高い水準である。しかしこれが2.07ないと人口の維持ができないとされている。また子育て世代へのアンケートでも、もっと子どもが欲しいが経済的理由や子育ての環境などで産むことができないという結果がでている。このことから産める環境を整えることが大事である。また益田への定着と流入と回帰の人の流れをつくる、すなわち益田で生まれた人は益田にとどまり、一旦市外に出た人は益田に帰るように、また益田の生まれでない人も益田に来てもらう、つまりIターンである。最後に地域にあるものを活用して、安全安心して暮らせるまちづくりをする。この4つの基本目標に具体的な施策を行ない、施策の効果を判断するための数値目標（KPI）によりチェックしていく。この総合戦略は平成27年度から32年度までの取組みの計画となる。国、県はもちろんのこと、市民や企業の皆様にも、ご理解をいただいたうえで、いろんなことに取り組んでいただくことが必要と考えている。またこの総合戦略の策定に当たっては、市民の皆様や市内有識者のご意見を伺っている。

2. 「教育委員会制度改革と新たな取組み」

平成27年度の動きとして、教育に関する制度が大きく変わった。教育委員会はいままで自治体の中で教育を進める組織であったが、教育の内容が政治的に傾くことが好ましくないことか

ら、市長部局とは独立した5人の委員により進めていた。これはこれで大切であるが、数年前の大津自殺事件のときのように、非常勤の委員が4人含まれていることから、すぐ集まり、機動的な対応ができないところもある。教育委員会のトップが教育委員長で、1年ごとに交代する非常勤の委員なので、責任関係も明確でない部分があった。

また教育委員会には常勤の教育長も含まれていたが、トップではなく事務局側の統括者という立場であった。

首長も教育予算に関わっているし、何かあると首長の責任が問われることもあることから、まず教育委員会のトップを教育長が務め、首長も教育の中立性や独立性に配慮しつつ、一定の範囲で教育委員会と協議調整し、教育の大きな方向性において足並みをそろえていくこととした。そこで「総合教育会議」を設置し、開催することとなった。これは、5人の教育委員と首長とで協議する場である。この会議の中においては、緊急事態にすぐ対応することもこの中のひとつであるが、教育に関する大きな方向性を教育に関する大綱として定めることも目的で、6月に益田市でも「益田市教育に関する大綱」を決めた。そしてこの大綱では、人口減少に歯止めをかけるための目標として、将来子ども達が益田で活躍する、チャンスを切り拓いていくことが可能となるような教育に力を入れることとしている。具体的な内容は「学力向上」「ふるさと教育の推進」「教育と子育て支援の一体化」「キャリア、起業家教育の推進」の4つである。教育に関しては、この新しい体制をもって、「ひとが育つまち益田」を進めていく。

中西小学校の建替えについて、地域の皆様からいろんなご意見をいただいているが、これについて若干説明させていただきたい。小学校、中学校は教育の場だけでなく、大規模災害時に地域の避難場所になることから、耐震性をきちんと確保することは重要である。補強が可能な学校は補強するが、中西小学校は補強ができないので建替えの方針で進めている。建替えに当たっては、教育委員会内でいろんな案があったが、今の学校の敷地面積の中で建て替えることが最終的に決まった。しかし方針決定以前は3案あり、ご存じのとおり周辺の土地を求め、建替え中にも運動場が利用できるように面積を広げる案もあった。この案が地域に幅広く認識され、地元がこの方針で進めて欲しいことについては伺っている。本来は方針が決定した以上、方針どおり進めていきたいと考えているが、地元にもそうした声があったことと、内田分校の統合にご理解をいただき進める中で、中西小学校をどう建てるか説明すべきところ、それをせずに進めた経過もあった。学校は教育委員会が所管し、市が建設するが、地域の皆様の共有財産でもあり、今後の学校教育を進めていくうえでは、地域のご理解、ご協力が大切である。そこで私としては内部で決まった方針をもう一度地域の皆様のご意見伺い、再検討してはどうかと考えている。

ただ何点かご理解いただきたいのは、新たに土地を買い求めて広い面積とする場合、当然その必要性が求められる。学校建設は多額の費用がかかり、国からも多額の補助金をいただいて建てるが、適正な規模でなければ補助金を受けられない。市の財源も使用するので、他の学校と比較し、あまりに広すぎると説明もできない。他地区の学校からもいろんな要望を受けているが待ってもらっている状況である。また買うと想定している場所は圃場整備された農地であるため、これを学校用地にするためには、それなりの手続きと説明が求められる。もうひとつ地区振興センターの北側に駐車場があるが、ここを一体的に整備すれば、他の私有地を買ってまでする必要が本当にあるかどうかなど、実際の必要性とかバランスとかを考え、地元の意見を伺いながら進めていきたい。また28年度に建物建設にかかるとしたが、学校のあり方を再検討するとなると、やや遅れることとなる。また農地を買うということになれば、農地転用などでさらに数年の遅れになるとご承知いただきたい。市内の学校耐震化もまだまだ残っており、一度にすべて実施することはできないので、ひとつずつ進めていくが、中西小学校については皆様が望んでおられる28年度着工のご希望に応えられない事をご理解いただきたい。

3. 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は、別紙のとおり。

- ①中西小学校の建替えについて・・・Ⅰ
- ②市の教育方針について
- ③中西小学校の建替えについて・・・Ⅱ
- ④石見臨空ファクトリーパークの環境整備について
- ⑤市職員の異動について
- ⑥「市長のおじゃまします」のお礼

○ 閉 会 （秘書広報課長）

平成27年度「市長と語り合う会」

〔会場 中西地区振興センター〕 開催日時：平成27年10月22日（木）19:00～20:10

要 望 事 項 等	回 答
<p>①中西小学校の建替えについて・・・I</p> <p>中西小学校の改築についてお願いしてきたが、学校再編の取組みとして、内田分校を統合する覚書の中で締結してきた事項である。小学校改築は28年度中に行う、工事期間も十分な運動場を子ども達に確保できるよう配慮してほしいといった中身である。敷地内工事では、子ども達の安全に気がかりなので、別な土地を準備したうえで、建築のお願いをした。しかし教育委員会ではその時には益田市の方針はすでに決まっていたと聞いた。なぜ覚書を締結したときにそのことを話してくれなかったかと思っている。これからの子ども達の教育環境をつくっていくことが百年の計として考え、様々な観点から考慮して本気で考えていただきたい。</p> <p>また中学校の体育館も29年度につくると聞いているが、計画どおりお願いしたい。</p> <p>②市の教育方針について</p> <p>教育について市長が先ほど申されたが、子育て支援として、放課児童クラブで、一般のお母さん方に交代で面倒を見てもらっている。しかし現在子どもが家庭にいる時間が短くなっている状況にある。昔は両親が家庭で厳しく子どもを育てていた。現状の他人が子どもを見るのが良いのかどうか、もう一度見直す必要があると思う。</p> <p>食育について、栄養のことには重点を置いているが、食事の際のしつけや行儀作法が怠っているのではないと思う。テレビでも立ち食いの番組が多いが、これは日本人の作法ではない。食事は座って箸で食べるというのが日本の昔からの作法である。こうしたことを同時に教育することが食育だと考える。</p> <p>子どもの教育について根本的に考え直していただきたい。</p>	<p>①まず中学校の体育館については、29年に行う予定である。</p> <p>先ほど述べたとおりであるが、1点だけ申し上げると、内田分校統合の際の覚書には確かに改築中の運動場について、生徒たちがきちんと使えるようにと明記してある。このこともしっかりと締結するときに説明しないといけなかったが、これは必ずしも小学校にある体育館を使える状態で工事をする意味に限定されていないというのが益田市の見解である。安田小学校でも建て替えを行なうが、ここでは北仙道小学校の体育館を一時的に利用することになっている。教育委員会では、往復で要する時間は体育の時間を連続で取るなどし、調整することとしている。小学校建築中に体育がしっかりできるように考えてのことである。もともと教育委員会では中西小学校建築中は、中西中学校体育館を利用することとしていたが、繰り返すがこうした考えは地域に伝え、覚書を提出すべきであったと考えている。教育委員会に配慮が足らず、誤解を与えたまま進めてしまったと言えるし、地元の側からすると期待をさせておいて修正することも言わず進めてきたことで、私はやり方としてまずかったと思っている。反省の意味もあって、今後地域の皆様と十分すり合わせをして、良い方向を見つけていきたい。</p> <p>②今日は語り合う会なので、市の考えとしてお答えするだけでなく、率直なお話しを伺い、私個人の気持ちはどうなのかなどをお伝えする場とお話しさせていただく。</p> <p>まず子育て支援の充実については、今求められていることだが、一方では子どもと親の距離がますます離れていく心配があり、私もそういう面はあると思っている。本来子どもを育てる一番の責任者は親であるし、一生その責任は続く。しかし男性、女性ともに同じように能力、個性を発揮し世の中で活躍することを求められていることを考えてみるなかで、現在家庭での子育ては、女性がみる機会が多い。女性だけに負担を負わずことはどうかと思う。したがって、子育てには多様性があるといいと思っている。当然子どものことは自分がしっかり見ると言う人は、それはそれで結構なことである。一方で保育所や放課後児童クラブへのニーズもあり、これが充足されないために育児が十分行えず、子どもを産みたくても産めない状況もある。人口減少が深刻な問題である現在においては、子育て支援も行政がしっかり環境を整備することが大事であると思っている。決してすべての子どもを親から引き離すものではない。保</p>

③中西小学校の建替えについて・・・Ⅱ

P T A会長だが、校舎の建替えについて子どもの学習環境や運動環境が変わることなので、十分配慮していただきたい。また校庭は体育の時間だけでなく、放課後も遊んだり、部活をしているので、体育だけ他でできればいいというものではない。地元を含めて再検討と言われているので、一緒になっていい学校をつくっていきたい。

④石見臨空ファクトリーパークの環境整備について

地元の石見臨空ファクトリーパークについて、お伺いしたい。

人口拡大における石見臨空ファクトリーパークは、産業振興、雇用の確保においてこれから大きなウェイトをもつと思っている。しかし43haの分譲地の半分以上残っていると思うが、草が生い茂り、非常に環境が悪い。所有は県土地開発公社だが、市が管理している部分も大きいので、環境整備を図って欲しい。

またこの残った分譲地への進出企業などの状況を教えて欲しい。

千本サクラの木を育てる会が発足しているが、発足当時の会長が市長となっている。以後のサクラの木の手入れが全くされず、木がなくなっている状況である。これも含め市長のお考えを聞きた

育園、放課後児童クラブもそれぞれ特色をもって運営されているので、親のしつけ、保育所の保育などいろいろ相まって子どもが多様に学ぶことができる。幅広い観点で子育てについて考えていかなければいけない。

食育のことだが、食育は確かに何を食べさせるかだけでなく、食べ物にまつわる文化とか食事の際の行儀とかをしっかりと身につけさせることも大事である。学校での給食は本来そういう意味で、欠食児童が多かった時代は、せめて学校での昼ごはんだけは栄養のあるものを食べさせようという所から戦後広まったと思う。今求められているのは、ただ栄養を充足するだけでなく、集団の中で食べる、行儀よく食べる、旬のものを食べてもらう、行事に食べるものを食べてもらうことも含まれている。益田市では小中学校給食で今年度から週5日すべて米飯給食にしている。日本の文化にあっているのは和食であるから、米飯にし、なおかつ、おかずも日本の伝統的な食材を利用していこうとしている。高津で新しい給食センターを建設しているが、今年度中に完成し、28年度当初からここで配食する。その時はお皿の数が二つ増え、より副食を彩りあるもので提供できると思う。この中では食事の美味しさだけでなく食育も併せて考えてみたいし、益田で採れた農作物や魚など地産地消を図りながら、農林水産業の振興も図っていききたい。

③P T A会長からご意見をいただいたが、地元の方々、特にP T Aの皆様のお考えもしっかり伺い話を進めていきたい。

④臨空ファクトリーパークにおいては、中西地区特に羽原地区の皆様には、大変お世話になっている。益田で仕事をつくる上では、ファクトリーパークは企業誘致を進める一番の拠点である。残念なことに分譲率がまだ30%台で、何とか企業誘致を進めたいと思っている。企業も最近やっと息を吹き返したが、国内に製造拠点を作る動きがまだまだ少ない。益田が高速道路もなく、空港もやっと東京線が2便化になった状況では、ものすごく魅力的な工業団地にはなっていないという状況もある。そうした中でいろんな支援策を用意し、一軒一軒誘致企業をあたり実現していききたいと思っている。現状は、昨日企業立地認定が調印されたが、これはI T産業で、あけぼのに事務所を構えた。本来なら広い敷地が必要な製造業を誘致したいが、数少ない手がかりを手繰り寄せているところだ。今臨空ファクトリー

い。

⑤市職員の異動について

学校再編について、地元の声をも十分に反映していただきたい。統合の中で、美濃小学校、内田分校にスクールバスができたが、美濃と中西の間に小学校1年の児童がおり、運行当初は乗車できなかった。今は乗せていただいていると思うが、当時教育委員会では他地区もあるので例外はつくれないと言われた。子どもの負担が大きいの、来年も該当する子がいるので、冷たい反応はせず、安全面を踏まえ、前向きに検討していただきたい。

市職員の異動で、長く部署におられるといろいろな面でデメリットがあるのかもしれないが、異動のタイミングを考えて欲しい。子育て支援課での話だが、この4月にシステムが変わった状態で、やっと職員が慣れたときに異動となると新しい方も勉強はされるが、負担が大きいのではないか。職員の異動はついて、仕事の状況に配慮されているのか。

⑥「市長のおじゃまします」のお礼

白上いきいきサロンへ忙しい中、ご出席いただき有難うございました。今回はいつもと違って良い会でした。市長から心に残る昔の話をしていただいた。

中西小学校は、孫、ひ孫が通う学校であるが、是非いい学校にしていきたい。

パークに強い関心を持っていただいている企業もあるが、支援のためには、これからも長く黒字が出る、銀行の借入れもスムーズであることが必要で、この審査が行われている。この企業は、現時点で業績が好調であり、うまくいけば近々進出していただけるのではないかと考えている。他にも何社か益田市進出に関心を持っていただいている企業もある。こうした数少ない情報を大切にしていきたい。

ファクトリーパークの美化であるが、おっしゃるとおり空き地には放っておけば雑草が生える。産業支援センターが時間を見つけ処理するようにしているが、追いついていない。清掃の周期を早くするなどし、環境美化に努める。

桜の植樹については、調べてみないとわからないが、市が管理をしていないのではないかと考えている。事務局が商工会議所の青年部だと思うので、単年度で役員が変わるとはいえ、役員さんには、そういう声があったことをお伝えする。

⑤通学のあり方であるが、状況を伺うと校区の境で、1人でとなると大変であるのは分かった。基本はどこかで線引きをしないと行けないが、例外的に安全面で配慮が必要であるとか、特例的な救済策はその都度考えていかなければいけないと思っている。

市職員の異動については、非常に悩ましい問題であるが、当然一定の年数がたてば、人事の鮮度を保ち、慣れ合いの解消のため異動をしなければならない。ただタイミングも考えないと大きな制度改正後などは弊害もあるので、よくよく注意しながら考えていきたい。ただ人事異動により、慣れた人が去り、新しい人が入れば、最初は何もわからなくて戸惑いが生じることは、避けられないと思う。一方外部の方に迷惑がかかってはいけないので、仕事の中身や外部の方との関係を考慮しながら、タイミングを図っていきたい。

⑥有難うございました。